

さらに注目すべきは、年長男児の太さの最短値以外すべての値において、もっとも長い枝を拾ってくるのが男児なら、もっとも短い枝を拾ってくるのも男児であった。また、ヤツデの茎、竹、丸太などバラツいた種類の枝を拾うのもすべて男児である。その点女児は一般に考えられるイメージどうりの枝を描いていた。

拾った枝の利用方法も幾例か観察されたが、特徴的だったのは男児は枝を持って戦うしぐさをするが、女児には見られなかったことである。

【考察と結論】

園庭と竹の子村の環境の違いと、年令の違いを超越して圧倒的に男児の数字が高いことに驚かされる。長く太い枝に愛着を持つのは男児であるのは明白である。この数字を保育環境の違いと考えるべきだろうか。

幼児は日常生活の中で、保育者（特に母親）から棒は危険と繰り返し注意を受け、友達を傷つけないように取り上げられ、しつけられていると想像される。すなわち環境の影響を受けなかった場合、前述の数字はさらに増える可能性があることを指摘したい。

なぜ男児はこれほどまでに、長く太い枝を好み武器として扱う行動を見せるのだろうか。女児はなぜ長さ太さに執着せず、武器として扱わないのだろうか。また、枝の種類や最長最短の調査結果にみる、男児のバラツキと女児の均一性はどこからくるのだろうか。

本調査から得られた問題点とこれまでの研究結果⁽¹⁾・⁽²⁾や先行研究⁽³⁾との共通点を次の（表3）にまとめ、比較考察を試みた。

・包装紙で作られる剣を年少から順に追っていくと男児の場合、経験を積むにしたがって固く鋭く長くなっていくが、女児は柔らかく太いままである。男児のように固く鋭く長くすることに執着しない。男児の剣の用途は武器である。女児の場合は先端に星や花をつけた魔法の杖であり、新体操のリボンになる。

・自由時間に女児がお絵描きやおりがみをしている横で、男児が大工道具を持ち出し竹を切ったり削っている様子を観察することは珍しくない。時として保育者顔負けの技術を持つ男児もいる。金属性の道具に興味を持つ男児は多い。

・紙工作でもお絵描きでも、女児はそつなくまとめあげ仕上がり美しい。集中力のある作品とそうでない作品のバラツキが男児には多くみられる。

・同じ彼岸花の課題画を描かせても男児は毒の根元、女児は花の部分の好む傾向がある。

以上のように好まれる枝の調査から得られた結果は

（表3）好まれる枝と造形活動の共通点

	好まれる枝	自由画	立体造形 その他の遊び
男 児	長い太い（大きい重い）	強いもの大きいものを好んで描く 固く重い色（寒色、低明度色）を好んで使う メカニック（金属）なモチーフ	ブロックを組み合わせ立体的で大きい形を作り出す 大きく固く重いハシゴ遊びに執着する 大工道具や金属性のパイプなどを好む
	種類が多い（固体差、バラツキ）	嗜好色は分散傾向（個人差がある） モチーフ、構図が多種類	ハシゴ遊びの種類が多い
	武器として扱う	モチーフに人工物が多い 闘争場面が多い	包装紙の剣を作る ブロックで武器を作る スピードがあり乗客を振り落としながら走るハシゴ電車
	ダイナミックな共同作業		砂遊びのダム作り ジャングルジムと滑り台にハシゴの橋をかける
女 児	短い細い（小さい）	可愛らしいもの、小さいもの志向	ブロックの組み立てには消極的で、単一的な形で利用する 大きく固く重いハシゴに馴染みにくい
	種類の均一性（等価性）	すべてのモチーフに等価性が強い 色を一画面に平均して使用する傾向 モチーフ、構図の種類がすくない	同じハシゴ遊びを反復する
	武器として扱わない	モチーフに人工物は僅少 闘争場面はほとんど見られない 楽園志向	包装紙で作るものは魔法の杖などであり剣ではない 皆仲良く集うための平和なハシゴ電車

、様々な点において幼児の造形表現にみられる性差の特徴に合致することが分かった。

今回の調査では大変大きな数値の差がでた。男女児の価値感の違いが最も顕著な領域だったに違いない。これは何が遠因となっているのだろうか。医学や心理学の立場からのご意見を伺いたいと思う。

【おわりに】

棒をふりまわす男児を乱暴、協調性がないなどのマイナスのイメージで対応する性質を女性保育者（母親を含む）にみることが多いが、自分の好みとは違ったところで男児の充実した達成感が得られることも多いと考えるべきである。叱る前になぜ棒に執着するのかを熟慮し、上手にその能力をのばしていく知識と経験を持つことが肝心ではなかろうか。

引用文献、参考文献

- (1) 宇佐美明子「幼児の立体造形における性差（1） — 道具の扱いから —」武蔵野女子大学幼児教育学会研究集録 第16集 1994年
宇佐美明子「幼児の立体造形における性差（2） — 道具の扱いから —」日本保育学会 第47回大会研究論文集 1994年
宇佐美明子「幼児の立体造形における性差（3） — 道具の扱いについて — 台湾の場合」日本美術教育連合研究紀要 第28号 1995年
宇佐美明子「幼児の立体造形における性差（4） — 日本と台湾の道具の扱いについての比較研究 —」武蔵野女子大学紀要 第30号 1995年
- (2) 宇佐美明子、皆本二三江「道具の扱いの性差にみる幼児の造形活動の基本的性質について — ハシゴ遊びと立体・平面造形の関連をとらえて —」武蔵野女子大学幼児教育学会研究集録 第18集 1996年
- (3) 皆本二三江編著「0歳からの表現・造形」文化書房博文社 1991年